

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	子どもたち一人一人の能力や特性を生かし、自立と社会参加に向けて、生きる力を主体的に発揮できるよう、児童生徒の学びを支え育む。
------------	--

学校整理番号	特17
学校名	青森県立黒石養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚(知的)・肢体・病弱

(2) 現状と課題	<p>本校は、黒石市温湯地区の山間にある南黒地区で知的障がい者を対象とする唯一の特別支援学校である。在籍数は小学部18名、中学部20名、高等部17名の計55名の小規模校である。通学方法は保護者送迎及び、路線バスを利用した自力通学、福祉サービスの送迎等である。</p> <p>校舎は市道から山間の坂道を登ったところにあり、校地内移動には安全面から十分な配慮が必要である。また、校地周辺が土砂災害警戒区域に指定されている傾斜地に立地していることから、特に冬期間は通学路の除雪や登下校指導に職員が関わり、児童生徒の安全対策に細心の注意を払いながら教育活動を推進しているところである。</p> <p>さらに今年度は、地域での熊出没情報が増加していることを受け、校外学習時には熊鈴や熊撃退スプレーの携帯や自力通学学生の学校・バス停間の移動において職員が同行する体制を整えるなど、野生動物対策も強化した。また、クマ等の害獣出没時の対応手順を整理した「害獣出没対応マニュアル」を作成し、全職員で共有した。これらの取組を通して、児童生徒が安心して学習活動に取り組めるよう、安全確保を一層徹底している。</p> <p>一方で、地域に開かれた学校を目指し、様々な交流活動に力を入れている。周辺の幼稚園、小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習のほか、地域資源(地域の自然環境や公共施設、人材等)を活用した体験型学習を積極的に実施している。</p> <p>今年度も、移転前に温湯地区を中心とした調べ学習や探究活動を全学部で進めた。児童生徒は地域を実際に訪れ、温湯地区の魅力や楽しさを体感することができた。また、毎年行っている通学路線の温湯バス停や銀行での美術作品展示に加え、地域の方々により広く鑑賞いただく機会として、11月に行われた黒石りんごまつりのブースなど、さまざまな場で作品展示を実施し、地域へのさらなる周知につながった。</p> <p>さらに今年度は、高等部でワークフェア(作業実演、作業製品販売、カフェ)を年2回開催した。ワークフェアを通して、本校の教育活動を地域に発信する貴重な機会となり、多くの方々から本校の取組を知っていただくことができた。</p>
-----------	--

自己評価実施日	令和7年11月12日(水)
学校関係者評価実施日	令和8年2月10日(火)

(3) 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習指導の充実と改善(「生きる力」を育む授業づくりの推進)</li> <li>2 道徳教育、生活・保健指導の充実</li> <li>3 キャリア教育・進路指導の充実</li> <li>4 開かれた学校づくりの推進</li> <li>5 職員の専門性の向上</li> <li>6 働き方改革とウェルビーイングの推進</li> </ol>
----------	--

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	<p>学校運営協議会委員8名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教授</li> <li>・地域のライオンズクラブ代表</li> <li>・行政代表(地域の役所)</li> <li>・保護者の代表(本校PTA会長)</li> <li>・本校元校長</li> <li>・地域住民の代表(陶工)</li> <li>・地域住民の代表(地区の社会福祉協議会会長)</li> <li>・本校校長</li> </ul>
----------------------	---

(4) 結果の公表	職員による自己評価及び保護者による学校の教育活動についてのアンケートの結果とその対応等について公表する。 ・職員、学校運営協議会委員、保護者に配付する。 ・職員には職員会議で、学校運営協議会委員には学校運営協議会で、保護者には参観日で説明する。 ・学校ホームページに掲載する。
-----------	---

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	学習指導の充実と改善(「生きる力」を育む授業づくりの推進)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 主体的・対話的で深い学びの追求(教育のDX化を追求した授業づくりの実践)</li> <li>② 小学部・中学部・高等部の12年間における一貫した系統性のある教育課程の編成</li> <li>③ 全校児童生徒の連帯感の醸成(小・中・高等部の合同体育の継続)</li> <li>④ 令和9年度新校舎移転に向けた教育課程の検討</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Canva等のアプリを活用し、相互のコミュニケーションを図りながらポスターや学級通信の作成に取り組むなど、授業実践を進めている。</li> <li>・清掃活動や合同授業などの学習を通して、児童生徒同士が話し合いを行い、気付いた点や改善点を共有しながら、主体的に気付きや理解を深められるよう授業改善に取り組んでいる。</li> <li>・全校児童生徒の連帯感を高めるため、合同体育に取り組んだ。縦割り3つのグループを編成し、年間8回実施した。毎回の活動後には話し合いを行い、反省を次年度へ生かすこととした。</li> <li>・新校舎移転後の地域性を踏まえ、学校運営協議会での委員からの提言や教職員の意見をもとに、教育課程検討委員会で検討を進めた。次年度も継続して検討していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は、タブレット等の操作を感覚的に身に付けていく。ICTを活用する機会を多く設け、より効果的に使いこなせる児童生徒へと育ててほしい。</li> <li>・小学部・中学部・高等部を併設している学校の利点を生かし、学部間の交流を大切にしてほしい。</li> <li>・学習活動や地域に根ざした取組については、とても充実していると感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用については、校内でミニ研修会を実施するなど、職員全体が活用できるよう取り組んでいく。</li> <li>・小学部から高等部までの系統的な指導を通して必要な資質・能力を児童生徒に育成できるように、指導内容と評価の在り方について検討するとともに、今年度取り組んだ合同授業の反省を生かし、学部間の連携をさらに深めていく。</li> <li>・次年度は温湯地区での教育活動が最終年となるため、移転先での教育活動を見据えつつ、行事等の見直しや精選を進めていく必要がある。</li> </ul>
2	道徳教育、生活・保健指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 礼儀正しく・思いやりにあふれる児童生徒の育成</li> <li>② 事故等の未然防止、未曾有の自然災害に対応した校内体制と安全教育の推進</li> <li>③ 校内外の環境美化、食の指導と性指導、その他健康・衛生に係る指導の充実</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「礼儀正しく、思いやりにあふれる児童生徒の育成」を掲げ、年度当初から取り組んできた。特に道徳教育では「相手のよいところを話そう」などの実践を通して、自己理解・他者理解につながる指導を行い、称賛を重ねることで児童生徒の成長を促した。</li> <li>・交通安全教室では、温湯駐在所の警察官に毎年協力を依頼し、安全指導を実施している。また、がけ崩れを想定した避難訓練も行い、さまざまな災害への備えを進めた。</li> <li>・熊対策として、目撃情報のあった周辺には近づかないよう指導するとともに、鈴や撃退スプレーの携帯、バス停までの職員の付き添いなどの対応を行った。併せて、「熊等害獣出没対応マニュアル」を作成し、対応体制を整えた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のよいところを発表する学習や、挨拶に重点を置いている点はとてもよい。よいところを言うことは難しいが、悪いところを挙げることは容易である。小さい頃から相手を褒めることや、よいところを見いだす活動は、人間形成に大きく寄与すると考える。</li> <li>・事故の未然防止の観点から、倒木や積雪が多い状況でも避難口の確保ができていないか確認する必要がある。避難口が確保できない場合にどのように対応するか、あらかじめ方針を定めておくことが求められる。</li> <li>・今年度は、熊対策についても臨機応変に対応していたと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに「あいさつの大切さ」を掲げ、全校で継続して取り組んでいく。また、道徳教育の充実を図り、明るい学校づくりを進めていく。</li> <li>・次年度も、思春期の大切な時期であることを踏まえ、性指導や食に関する指導を継続して実施していく。</li> <li>・「熊等害獣出没対応マニュアル」に沿って訓練等を実施し、いざという時に備える必要がある。</li> </ul>
3	キャリア教育・進路指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 小学部・中学部・高等部の連携と系統的で一貫性のあるキャリア教育・進路指導の推進</li> <li>② 保護者、地域社会、関係機関等との連携による職業教育の充実</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路だよりをタイムリーに発行することで、児童生徒および保護者への情報提供につながり、小学部の保護者からも具体的な質問が出るなど、高等部卒業後の生活を見据えた意識の向上につながっている。</li> <li>・ワークフェア内で実施した「黒養ワークトレーニング社(作業実演)」では、地元の生徒も参加し、作業体験を通して交流を深めることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路だよりなどを通して、早い段階から多くの情報を提供していたただけることは大変ありがたい。今後も継続して情報発信を続けてほしい。</li> <li>・黒養ワークトレーニング社については、これまで積み上げてきた取り組みがある。黒石商業跡地への移転後も、ワークフェアはぜひ継続して実施してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての学部(小学部・中学部・高等部)の保護者を対象とした進路講演会を継続して実施し、高等部卒業後の進路に関する情報発信に努めていく。</li> <li>・産業現場等における実習や校内実習については、今後も地域社会の協力を得ながら継続して実施していく。</li> </ul>

4	開かれた学校づくりの推進	<p>①教育活動の情報発信 ②地域支援及び教育相談の充実 ③地域の方々、学校との交流活動（居住地校交流も含む）の推進（地域の祭り「温湯丑湯祭」への参加継続） ④児童生徒・保護者・職員・関係者の意見を取り入れた新校舎建設の推進（新校舎外観デザインアンケート） ⑤温湯・上山形・南中野地区との絆の深化、移転先（あけぼの町）についての探究活動（総合的な学習・探究の時間の活用）</p>	<p>・学校公開および「お山の学校であそぼう」を実施した。地域の子どもたちや保護者、関係機関の方々が多数参加し、地域への周知および連携の強化につながった。 ・学校間交流および居住地校交流は、概ね計画どおり実施することができた。 ・「温湯丑湯祭」には、希望する児童生徒やその家族が参加し、地域との交流を深めることができた。 ・黒石市主催のりんごまつりに作品を展示し、児童生徒の活動成果を広くアピールした。 ・地域との交流活動として、小学部のクリスマス会、ぶどう作業体験、中学部の陶芸教室やピザ焼き体験、高等部のプチ修行体験や農作業体験など、各学部で充実した教育活動を実施した。</p>	A	<p>・地域の祭りやさまざまな行事に参加することで、子どもたちが学校へ来ることを楽しみにしている様子うかがえる。もし来年度も祭りへの参加をご検討いただけるのであれば大変うれしく思う。少人数であってもよいので、ぜひ参加してほしい。 ・移転先でも、地域の方々との交流については、学校から依頼されて断る方はあまりいないと思われるため、さまざまな交流活動が可能になるだろう。地域の方々とのつながりを生かし、児童生徒にとってさらに楽しい活動を設定していってほしい。</p>	<p>・学校公開および「お山の学校であそぼう」は、今年も多くの参加者を迎え好評を得たことから、来年度も開催し、本校が地域における特別支援教育のセンター的機能をさらに高めていく。 ・温湯地区を中心に、調べ学習や探究活動を全学部で実施したことで、地域の魅力や楽しさを改めて実感することができた。今後も、校舎移転までの限られた時間を大切にしながら、新たな発見や学びを求め、より充実した学習活動を展開していく。</p>
5	職員の専門性の向上	<p>①校内研究・校内研修による実践的指導力の向上 ②センター研修並びに校外研修への積極的参加 ③教育のDX化を進めるための職員研修の充実</p>	<p>・校内研究に伴い校内研修を実施し、センターから指導主事を招いて助言を受けることで、実践的指導力の向上を図った。 ・研修報告会を企画し、県外研修に参加した職員から得られた情報を共有した。 ・生成AI等に関する研修会にも積極的に参加していた。</p>	A	<p>・校内研究は、多くの学校において学校評価が低くなりがちである。大切なのは、校内研究の成果を自分の授業実践にどのように結びつけるかを意識できるかどうかである。</p>	<p>・校内研究は、来年度で3カ年計画の最終年を迎える。これまでの2年間の取組をしっかりと振り返り、その成果と課題を明確にしたうえで、最終年度へつなげていく。</p>
6	働き方改革とウェルビーイングの推進	<p>①職員の心身の健康管理とウェルビーイングの向上 ②年休取得の促進とワーク・ライフ・バランスの確保 ③校務の効率化・業務負担軽減（スクラップ・ビルド） ④教職員の働きがい向上と組織の活性化</p>	<p>・業務の効率化や精選に対する意識を高めるため、月ごとに全教職員の時間外勤務時間の平均を共有した。 ・毎月の会議等において、健康への留意や計画的な年次有給休暇の取得について周知した。 ・職員会議の回数を削減し、児童生徒と向き合う時間や教材研究の時間の確保に努めた。</p>	A	<p>・年次休暇の取得率が高く、とてもよい状況である。また、教職員の表情も明るく、学校全体の雰囲気が良いと感じる。 ・今後も残業時間の削減を進め、ワーク・ライフ・バランスの向上につなげてほしい。</p>	<p>・今後も、業務の効率化や精選に対する意識を高めるとともに、健康への留意を促していく。</p>
(11) 総括	<p>職員による学校評価では、全体の平均が「学校運営 3.6」、「教育活動 3.6」となり、昨年度と同じ数値であった。個人情報の管理や経理に関する項目の評価は高く、日頃から教育公務員として服務規律を遵守しながら職務を遂行していることの表れと考えられる。一方で、学校課題の解決、研究・研修の成果活用、計画的な研修派遣については評価が低く、改善が必要である。特に学校課題については、具体的な取組と学校課題が十分に結びついていないことが要因として考えられ、学校課題をより意識できるような工夫が求められる。</p> <p>保護者による学校の教育活動に関する評価では、昨年度を上回る平均値となり、全体を通して高い評価が得られた。このことから、本校の教育活動に対して保護者からは概ね理解と信頼を得ていると考えられる。</p>					